

武蔵野小学校避難所開設・運営訓練実施報告

2020年11月17日
15ブロック長
藤田 浩行

日時 2020年11月14日 14:00～15:10

場所 武蔵野小学校（校庭、防災倉庫、体育館）

出席者 武蔵野小 岡部校長、森本副校長、教職員3名

昭島市 高橋委員長、防災課職員2名

むさしの 宇野会長、中神団地 内木会長、日の出 平賀防災部長、

バーデン 安中会長、昭文 大槻会長、笹川幹事、高橋氏、

武蔵野小PTA 福島会長、木間民生委員、武蔵野小ウイズ 古屋委員長、

15ブロック 藤田

標題の件につき以下に報告します。

1 訓練の目的

新型コロナウイルス感染症に対応した避難所の開設を行い、感染防止対策の確認しスムーズな運営ができるようにする。

2 訓練想定

現在のコロナ禍において、令和2年11月14日(土)午後1時半に立川断層帯地震が発生。市域全体で震度6強が観測され、多くの地域の方が校庭に一時避難している。

3 訓練実施項目および内容、感想

(1) 無線通信訓練（市職員（初動班Ⅱ職員）対応）

発災後、初動班1名が市役所へトランシーバーを取りに行き、武蔵野小学校に戻り、市本部からトランシーバーで武蔵野小学校の避難所開設指令を受ける想定。今回は校庭で防災課職員2名により行われた。

(2) 簡易備蓄倉庫からの物資搬出

学童クラブ横の簡易備蓄倉庫鍵は、避難所運営委員会初動班2名、副委員長（校長、ブロック長）が保管している。発災後いずれかにより開錠する。

発災後、避難所運営委員により必要物資の搬出を行う。

倉庫内には、300人1日分の食料がある。水は無し（詳細は4頁参照）。

今回は受付に必要な文房具を搬出した。

(3) 受付設置

今回、体育館入口の階段を上ったエントランスに設置（3頁参照）。机は学校から借用、受付に必要な文房具の確認を行った。

避難者が大勢の場合、階段で待つのは危険ではとのことから、階段下にテント設置して受付とするか、階段下で一旦待ってもらい数人のみエントランスに上がってもらう案が出された。階段を含め避難所内では車いすの方や足が不自由な方の介助が必要である。

高橋委員長は発災後集まった委員で避難所を運営するというというのが、現状では避難所開設、運営の見通しが立たない。避難所開設に必要な運営側の役割と支援者人数（場合により3直体制）、支援可能日時、受け入れ可能人数、受付条件（先着順にするのか等）、誘導手順などが未確認である。つまり、今、避難所開設が必要な状況になっても前記を計画、支援可能者の確認から始めるので受付の準備がいつ整うのか聞かれても誰も答えられない。

いろいろなケースを想定し、前記具体的内容をタイムスケジュール化できなければ、避難所はうまく機能せず支援者は不安を抱えながら対応を迫られることになる。ここは市側から強く言えないので自治会側で提案し動くことが期待される。

(4) 避難スペース確保（パーテーションの設置）

体育館ステージ向かって左側に、パーテーションが100個保管されており、今回はこのうち5個のパーテーションの組立、居住性確認、片付けを行った。

避難者には、原則1家族1パーテーションが割り当てられる。しかし写真でわかる通り4人が密着状態で横になれるスペース。おそらく5人以上だと横になれないので1世帯2個必要なケースに対し対応を考えておく必要がある。

コロナ禍における体育館設置可能パーテーション数は50～60個。残りは教室の居住スペースで使用。受け入れ可能人数は体育館のほか教室へのパーテーション可能設置数、残りのスペースへの可能受入数で算出把握し実情に応じて変更することが必要となる。

校舎内への避難可能人数については事前に条件を決めておき随時状況を把握共有し、調整、受け入れ人数の限界判断ができないと、大勢避難者がいる場合に收拾がつかなくなる。過去の災害の教訓から、避難者を受け入れできない場合は市と連携して避難者を他の避難所へ素早くつなぐことも必要となる。

(5) その他

校舎内で受け入れができない場合、勝手にブルーシートやテントなどを持ち込んで校庭に避難される可能性があるが校庭は避難所の対象外。トイレのため校舎内に立ち入ったりすることで避難者との問題発生も想定される。校庭を避難所として活用するにしても運営に人が必要となる。校庭の活用については今後の課題である。

避難所運営委員として主に自治会長や防災役員、地域の代表者が任命されているが、実際の運営は名前の挙がっている委員だけではおそらく足りず自治会員の協力が必要となる。各自治会で防災役員を組織しているが、現状では発災時自治会長や防災担当役員は自分の自治会と本避難所運営の両方の対応が必要になる。限られた人数の中どのように活動するのか決める必要がある（12月常任委員会で市の考えを聞きます）。

(6) まとめ

訓練の想定としては、冬季夜間発災（市側は初動班のみ、学校職員不在）、停電、天候雨、収容可能人数を大幅に上回る方の避難所来場などを条件に入れないと想定していない事態への遭遇で活動が停滞、支援者に負担がかかり協力者の理解が得られず運営が困難になることが予想される。

今回実地訓練を行ってわかった問題については次回の反省会で確認し、次年度も継続して対策を検討し実地訓練を重ねることで実際の状況に対応できる力がついてゆくと思うので引き続き自治会役員や地域の代表者の方々の協力をお願いしたい。

以上